

<H19-5-A : 問題>

次の文は、一般的な空中三角測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. パスポイントは、撮影コース方向の写真の接続を行うために用いる点である。
2. タイポイントは、隣接する撮影コース間の接続を行うために用いる点である。
3. パスポイントは、付近がなるべく平坦で連続する 3 枚の空中写真上で実体視ができる明りよ
うな位置に選定する。
4. ブロック調整においては、タイポイントがコース方向に一直線に並ぶように配置する。
5. タイポイントは、パスポイントで兼ねることができる。

<H19-5-B : 問題>

平たんな土地を、縮尺 1/10,000 で撮影した鉛直空中写真がある。写真上には、煙突と橋が写っている。煙突は写真上に長さ 2mm で写っており、鉛直点から煙突先端までの写真上の長さは 6cm であった。また、橋の端点の一方は鉛直点と一致しており、写真上の橋の長さは 2cm で写っていた。橋の長さや煙突の高さの関係について正しいものはどれか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、航空カメラの画面距離は 15cm とする。

1. 橋の長さは、煙突の高さの半分である。
2. 橋の長さは、煙突の高さと同じである。
3. 橋の長さは、煙突の高さの 2 倍である。
4. 橋の長さは、煙突の高さの 3 倍である。
5. 橋の長さは、煙突の高さの 4 倍である。

<H19-5-C : 問題>

図5-1は、画面の大きさ 23cm×23cm の航空カメラで平坦な土地を撮影した一組の等高度鉛直空中写真を、同一平面上に縦視差のない状態で並べて置いたものである。左右の写真には地上の目標物Aが写っており、左右の主点p及び目標物Aの間隔を計測したところ図5-1に示したとおりであった。この写真のオーバーラップはいくらか。最も近いものを次の中から選べ。

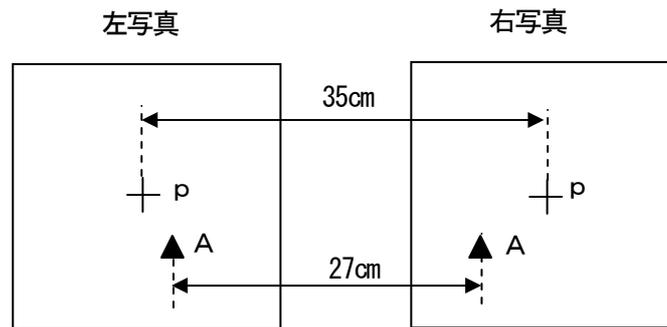


図5-1

1. 61 %
2. 65 %
3. 69 %
4. 73 %
5. 77 %

〈H19-5-D : 問題〉

次の文は、一般的なデジタルマッピングにおける数値図化について述べたものである。

明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 数値図化においては、解析図化機、座標読取装置付アナログ図化機又はデジタルステレオ図化機を使用することができる。
2. デジタルステレオ図化機では、使用する画像の解像度にかかわらず、均一な精度の数値図化データを取得することができる。
3. 取得する数値図化データには、地物及び地形の種類を区分した分類コードを付ける。
4. 数値図化では、等高線法による地形データ取得のほか、数値地形モデル法によるデータ取得が行える。
5. 数値図化データは、空中写真及び現地調査資料などにより、出力図上で取得漏れ、データ間の整合性について点検する。